

自分の人生だから

長生村立長生中学校 三年 堂前 茉広

皆さんは、自分のことについて考えたことはありますか。自分はこんな感じだなとか自分はこういう性格だなとか思ったり考えたりしたことはありますか。正直、私は自分のことを男の子っぽい感じだなと思っています。

中学校では、制服がありますが、私の私服にはスカートが一つもありません。それに今は一人称を「私」にしていますが、家にいるときや友達の前では「俺」と言い、あまり私とは言いません。

それと私は勉強があまり得意ではありません。家でゲームをしたりスポーツをしたりする方が好きです。

しかし、女の子の友達と遊んでいるときに「どうして自分のことオレって言うの。女の子がオレって言うのはおかしいよ」と言われてしまいました。そのとき初めて周りの女の子達と自分が違うことに気付きました。そして、同時にショックを受けました。「自分は周りと違うんだ。」と。

おそらく、兄の男の子の友達と遊ぶ機会が多く、話し方や一人称がうつってしまったんだと思います。でも、それが普通なんだと思っていました。

そのとき、友達に何も言い返すことができなかったことを、今でも覚えています。

こういう自分でいいのか。こんな疑問が浮かびました。一人の自立した人間なのだから何を着ようが、自分をどう呼ぼうがいいのではないか。

思い悩む私の様子を察したのか、母が私に声をかけてくれました。そんなときに、母にこの話をしたら「自分の人生だから自分で決めたらいいと思うよ。」と言ってくれました。その言葉のおかげで今は自分のことを言われても不快な気持ちにはならなくなりました。自分のことを変だと言われたり思ったりする人もたくさんいると思います。私の好きな歌手の一人は個性的で男声の低音も女声の高音も使いこなし、

声優の活動も行っています。

その人は、性同一性障害をもっています。この障害を簡単に説明すると、身体の性と心の性が一致しないことです。例を挙げると、「男子でもスカートをはきたい。」「女子でも中学校で学ランを着たい。」などです。

そして、歌手の人はこう話しました。「自分は、たくさんの人に今の自分の姿を見てもらい今の自分を認めてもらいたい。」その話を聞いて私は、今の自分と過去の自分を見返すようになりました。周りの人とは違うけれど、それでも今の自分を認めてもらいたいと言えるのがすごいと思いました。

もしかしたら、私のように自分を否定されて何も言えなかったり、ありのままの自分を隠していたりする人もいるかもしれません。

そうしたら私が「君を否定する人なんかいないよ。」と優しい言葉をかけてあげたいです。「世界には色々な人がいるんだよ。」と、私は伝えたいです。皆さんも今の自分を考えてみてはいかがでしょうか。きっと、自分が思う以上に素晴らしいものが見つかるはずですよ。